

# Cantabile

2015. March

Vol.10

発行

山形県音楽教育連盟

山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

平成27年 3月31日

最北



村山



置賜



庄内



## 新たな決意

会長 佐藤 文昭

釜石・大槌地区中学生の混声合唱、アキラマリンのミニコンサートの感動の余韻に浸りながら、東北音研釜石・大槌大会が幕を閉じた。東日本大震災による放射能汚染の影響で、予定していた福島県での開催が不可能となり、大会開催が危ぶまれる中、こんな窮状の時こそと、開催を引き受けたのが、被災地である当地であった。中学生の合唱は、まさに決意と思いのこもった歌声で、聴く者の心を鷲掴みにした。何のために歌うのか、だれのために歌うのか、我々が日ごろの指導で、となく忘れがちなことを中学生の合唱は、見事に表現してくれた。改めて、開催に導いた指導者の姿勢に敬意を表したい。

さて、本誌が記念すべき十号の発行となった。県音連の教師力の向上と県内音楽教師の活性化を目的とした発刊であった。この事業を立ち上げた当時の会長、編集の担当者、そして、これまで執筆にあたられた各位に改めて感謝を申し上げたい。今後は、更に誌面の充実を図り、音楽教育関係者の研修に資する誌面づくりに傾注したい。

六月に開催された県音連第一回理事会では、昨年度から取り組んでいる本県の音楽教育の三つの課題として、①表現活動の活性化、②研修の充実、③県音連の歩みⅡの発刊に向けての各プロジェクトチームからの中間発表を行った。この課題の中で、①は今後とも、本県音楽教育を充実させるために継続して深めていかなければならないものである。平成三十年度開催の東北音研酒田・鮎海大会に向け、本県の音楽教育が、共に高まるよう期待してやまない。

【小学校】  
期 目 平成二十六年八月七日（木）  
会 場 山形市江南公民館 講堂  
内 容 「合唱づくりのポイント」  
講師 山形県合唱連盟副理事長  
柿崎泰裕氏  
合唱曲「すてきな一歩」「Wish」夢を信じて」等を歌いながら、柿崎先生の合唱づくりのこだわりを教えてください。  
①隊形（座席）作りと距離  
②受け皿作り（授業のルール）  
③基礎力（発声・発音・ソルフェージュ）  
④個人指導（個の把握・理解・支援）  
⑤音楽の魅力作り（表現）  
柿崎先生の音楽指導のテーマは「自立と共生」であり、友だちと歌う楽しさや、声が互いに解け合う喜びを味わわせ、心を耕すことを大切にしているというお話をお聞きし、合唱を通してめざすものについて深く学ぶことができた研修だった。  
担当 石澤（左沢小）

【中学校】  
期 目 平成二十六年九月十日（水）  
会 場 福島県郡山市立郡山第二中学校  
内 容 参観授業「合唱の魅力」と協議会  
授業者 佐藤美奈子教諭  
・「楽譜が読める子ども」を育てることを目標に、一年一学期は授業での読譜指導を積み重ねている。また郡山市の教育課程に則り、一年間は器楽合奏を中心に行い、本格的に合唱を始めるのは二年次から

【小学校】  
期 目 平成二十六年十一月六日（木）  
会 場 遊佐町立遊佐小学校  
内 容 授業研究会  
授業者 斉藤香教諭  
「いろいろな音にしよう」（二年生）  
「星空の演奏会をしよう」というめあてで、自分達で作った「星の音」を発表し合った。毎時間積み重ねてきた音遊びの成果が現れ、子供たちが感性豊かに音作りをしている様子が見られた。互いの認め合いも良かった。  
【中学校】  
期 目 平成二十六年十一月十一日（火）  
会 場 遊佐町立遊佐中学校  
内 容 授業研究会  
授業者 安達智明教諭  
「民謡を唄おう」（二年生）  
「花笠音頭」「ソーラン節」のどちらかを選択し、CDを参考に民謡独特の発声やコブシなどに注意しながら練習した。日本の伝統音楽を大切にしたいという授業者の思いがふれる授業であった。  
担当 海藤（富士見小）



担当 友野（鶴三中）

生徒数のべ約九、八〇〇人が鑑賞した。この中には全校生徒三十〜七十数名の小規模校も数校含まれる。今年度は残念ながら小規模校への巡回公演は実現しなかったものの、各校の協力で合同鑑賞という形で実施することができた。次年度の公演団体は事務局が選定しているが、今後も地区全体で音楽好きな生徒児童が増えていくような、質の高い、楽しめる鑑賞教室の企画を考えている。

平成26年度  
4地区・高等学校  
研究協議会  
あしあと

【小学校】  
期 目 平成二十六年十月二十三日（木）  
会 場 米沢市立第二中学校  
内 容 「合唱指導と講話及び実技指導」  
講師 山形県合唱連盟理事長  
鈴木義孝氏  
(1) モデルクラス（三年生）の合唱指導参観  
曲名「手紙」の指導。緊張していた生徒もすぐに先生の指導に吸い込まれ、表情も柔らかくなっていた。とりわけ「様々な声があって一緒に歌い合わせていくのだから合唱は面白い」というお話は生徒達にとって印象的であったようだ。  
・「こんにちは」という声を聴きパート分け（似た声質は近くに作る）  
・ブレスをしつかりする（声を出すには息が必要）  
・音楽をつくる楽しさを体感させる（喜怒哀楽の表情をつけて歌う・テンポを変えて歌う・ステップや手拍子をつけて歌う）  
・曲づくりの大切さについて（どう歌いたいのか考えさせる）  
生徒一人ひとりの笑顔が教室に溢れ、声も同時に前に出てくるようになった。声を出すことや表現することの楽しさを感じ、曲の仕上げる段階では生徒達から「もっと歌いたい」と声があり時間を延ばした。  
担当 荒川（米沢六中）

【中学校】  
期 目 平成二十六年十一月十九日（水）  
会 場 真室川町立真室川中学校  
内 容 授業研究会  
授業者 漆山 敬教諭  
・題材名 魔王の良さを味わおう  
・教材名 「魔王」  
・学級 一年C組  
「歌曲『魔王』に秘められたシェーベルの工夫を見つけよう」という課題に向かい、生徒はグループで音楽的要素を探す活動に取り組んだ。四人ずつのグループに一つずつCDとデッキが配置され、仲間と意見を述べ合いながら、歌い方の工夫や強弱の変化、調の変化などに気づくことができた。  
(2) 研究協議  
・指導助言 平田亜矢氏  
受動的な鑑賞授業でなく、生徒が自主的に音楽的要素を発見していくという能動的な授業になっていた。これからの鑑賞スタイルの変化を予感させる取り組みであった。  
(3) 講話「鑑賞指導について」  
講師 平田亜矢氏（武蔵野音楽大学 音楽教育研究学科非常勤講師）  
①興味②理解③感動



担当 本間（真室川あさひ小）  
漆山（真室川中）

・繰り返し聴かせることの重要性、思わず耳を傾けてしまいたくなるポイント「聴点（視点のこと）」を示す。  
・方法についての考え方  
・発見させる、想像させる、比べさせる、確認させる、言葉として表現させる。  
・評価  
たくさん書いていることや国語的な力を見るのではなく、総合的に評価したい。  
具体的な事例を挙げて、様々な「聴点」を示しながら繰り返し聴かせることの大切さを教えていただいた。  
北村山地区の先生方の参加もあり、充実した研修会となった。  
担当 本間（真室川あさひ小）  
漆山（真室川中）

【小学校】  
期 目 平成二十六年八月七日（木）  
会 場 山形市江南公民館 講堂  
内 容 「合唱づくりのポイント」  
講師 山形県合唱連盟副理事長  
柿崎泰裕氏  
合唱曲「すてきな一歩」「Wish」夢を信じて」等を歌いながら、柿崎先生の合唱づくりのこだわりを教えてください。  
①隊形（座席）作りと距離  
②受け皿作り（授業のルール）  
③基礎力（発声・発音・ソルフェージュ）  
④個人指導（個の把握・理解・支援）  
⑤音楽の魅力作り（表現）  
柿崎先生の音楽指導のテーマは「自立と共生」であり、友だちと歌う楽しさや、声

が互いに解け合う喜びを味わわせ、心を耕すことを大切にしているというお話をお聞きし、合唱を通してめざすものについて深く学ぶことができた研修だった。  
担当 石澤（左沢小）

【中学校】  
期 目 平成二十六年九月十日（水）  
会 場 福島県郡山市立郡山第二中学校  
内 容 参観授業「合唱の魅力」と協議会  
授業者 佐藤美奈子教諭  
・「楽譜が読める子ども」を育てることを目標に、一年一学期は授業での読譜指導を積み重ねている。また郡山市の教育課程に則り、一年間は器楽合奏を中心に行い、本格的に合唱を始めるのは二年次から



・「こんにちは」という声を聴きパート分け（似た声質は近くに作る）  
・ブレスをしつかりする（声を出すには息が必要）  
・音楽をつくる楽しさを体感させる（喜怒哀楽の表情をつけて歌う・テンポを変えて歌う・ステップや手拍子をつけて歌う）  
・曲づくりの大切さについて（どう歌いたいのか考えさせる）  
生徒一人ひとりの笑顔が教室に溢れ、声も同時に前に出てくるようになった。声を出すことや表現することの楽しさを感じ、曲の仕上げる段階では生徒達から「もっと歌いたい」と声があり時間を延ばした。  
担当 荒川（米沢六中）



【小学校】  
期 目 平成二十六年十月二十三日（木）  
会 場 米沢市立第二中学校  
内 容 「合唱指導と講話及び実技指導」  
講師 山形県合唱連盟理事長  
鈴木義孝氏  
(1) モデルクラス（三年生）の合唱指導参観  
曲名「手紙」の指導。緊張していた生徒もすぐに先生の指導に吸い込まれ、表情も柔らかくなっていた。とりわけ「様々な声があって一緒に歌い合わせていくのだから合唱は面白い」というお話は生徒達にとって印象的であったようだ。  
・「こんにちは」という声を聴きパート分け（似た声質は近くに作る）  
・ブレスをしつかりする（声を出すには息が必要）  
・音楽をつくる楽しさを体感させる（喜怒哀楽の表情をつけて歌う・テンポを変えて歌う・ステップや手拍子をつけて歌う）  
・曲づくりの大切さについて（どう歌いたいのか考えさせる）  
生徒一人ひとりの笑顔が教室に溢れ、声も同時に前に出てくるようになった。声を出すことや表現することの楽しさを感じ、曲の仕上げる段階では生徒達から「もっと歌いたい」と声があり時間を延ばした。  
担当 荒川（米沢六中）

【中学校】  
期 目 平成二十六年十一月十九日（水）  
会 場 真室川町立真室川中学校  
内 容 授業研究会  
授業者 漆山 敬教諭  
・題材名 魔王の良さを味わおう  
・教材名 「魔王」  
・学級 一年C組  
「歌曲『魔王』に秘められたシェーベルの工夫を見つけよう」という課題に向かい、生徒はグループで音楽的要素を探す活動に取り組んだ。四人ずつのグループに一つずつCDとデッキが配置され、仲間と意見を述べ合いながら、歌い方の工夫や強弱の変化、調の変化などに気づくことができた。  
(2) 研究協議  
・指導助言 平田亜矢氏  
受動的な鑑賞授業でなく、生徒が自主的に音楽的要素を発見していくという能動的な授業になっていた。これからの鑑賞スタイルの変化を予感させる取り組みであった。  
(3) 講話「鑑賞指導について」  
講師 平田亜矢氏（武蔵野音楽大学 音楽教育研究学科非常勤講師）  
①興味②理解③感動

# 高等学校

期日

平成二十六年六月十九日(木)

二十日(金)

会場

山形県立新庄南高等学校  
シェーネスハイム金山

内容

(1) 研究授業

山形県立新庄南高等学校 鈴木祐樹教諭

「アンサンブルの楽しみ」

「アドリブ・ソロを創ろう」

普通科二年生の音楽  
選択者二十三名による音楽Ⅱの授業を公開し  
た。「イン・ザ・ムード」を教材に、生徒各々が  
思い思いのアドリブ・  
ソロを創作し、演奏を  
行った。iPadによる伴奏や、後の評価の  
ためにビデオ撮影を取り入れるなどの工夫  
も見られた。他の生徒の優れた演奏に拍手  
を送る素直で活発な生徒達の様子が印象に  
残る研究授業であった。

(2) 研究演奏

様々な編成でのアンサンブル

「デイズニー・オン・パレード」

少子化の影響で吹奏楽部員数確保が困難  
な今、『フレックスアンサンブルの演奏と  
活用』というテーマで、一つの楽譜を用い  
て管打・木管・金管・リコーダーという様々  
な編成でアンサンブル演奏を行うという試  
みであった。吹奏楽器経験のない人も初め  
ての楽器を練習し、賛助演奏を二人加えて  
の力演であった。

(3) 講演会

「生徒たちと楽しむための編曲法」

講師 洗足学園音楽大学

教授 安彦善博氏

講師の安彦先生は山形県最上郡の出身  
で、久しぶりの山形での講習とのことで  
あった。「生徒たちと楽しむ編曲法」のテー  
マで、メロディーからのアレンジ、合唱の  
アレンジ、様々な楽曲の楽譜を活用して実  
際に創作を行った。次々に出される課題に  
一心不乱に五線に向かって曲作りに取り組  
み、若き日を彷彿とする講習であった。

(4) 研究発表

山形県立高島高等学校 本間有希教諭

「総合学科における鍵盤楽器を用いた

授業の取り組みと課題」

生徒の卒業後の進路にも活かせる力を養  
うために、鍵盤楽器を中心とした学習の実  
践例を発表した。年間を通じた段階的な学  
習により、生徒が達成感を感じながら理解  
を深めることができ、また互いに学び合え  
るような授業を意識することで、苦手意識  
のある生徒も支えられながら継続して取り  
組めたという。実際に生徒が演奏する様子  
の映像を用いての報告であった。

(5) 研修会

「iPadの音楽への活用」

iPadを使用して、演奏データを作成

し演奏させる研修を行った。

まずiPad対応のアプリ  
ケーションソフト「ガレ  
ジバンド」でギター伴奏デ  
ータなどを、続いて「ボーカ  
ロイド」によりバーチャル  
ボーカルパートを作成した。  
受講者は自分の作品を演奏  
させながら楽しいひと時を  
過ごすことができた。

「これからの山形の音楽教育を考える」  
平成二十六年山形県音楽教育研修会

研修担当 岸 純一

今年度の研修会は、十一月二十九日(土)  
に山形市総合学習センター多目的研修室に  
於いて、県内の各地区各校種の音楽科担当  
教諭、音連理事等二十五名の参加者を得て  
開催されました。まずは、大宮裕一県教育センター指導主  
事から、「これからの音楽教育を考える」  
と題して基調講演をいただきました。未来  
を語るためには、現在の学習指導要領の趣  
旨を生かした実践が大切であるということ  
を学習指導要領の内容や実践に際しての留  
意すべきことや解説と共にご指導いただき  
ました。続いて、県内各地・各校種で指導的立場  
でご活躍いただいている先生方にパネラー  
をお願いし、本県の音楽教育の方向性につ  
いて幅広く熱く深く語っていただきました。  
フロアの方々からもたくさんの意見や悩み  
や要望が出されました。小中学校では、教科音楽と行事における  
音楽指導との関係性の問題、音楽づくり(創作)  
の音楽科経営の問題、音楽づくり(創作)  
についての関心の高まりと指導法の悩み、評  
授業におけるねらいや課題の絞り込みと評  
価についての問題、研修の大切さ、県音連

への要望などについて協議されました。

子ども達に日々向かい合っている音楽教  
師の私たちは、常に学び続ける教師であり  
たいとの意を強くもった会でした。そして、  
私たち教師は、自信をもって授業に臨むこ  
とができるように、ネットワークを結び、  
情報交換や学び合える研修をたくさん持ち  
たいものだと思います。今回の研修会  
で話し合われた  
ことを踏まひに  
して、今後の研  
修活動をさらに  
質量共に充実す  
べく、来年度の  
研修活動を検討  
していきたいと  
強く感じました。

## あとがき

県音連会報「カンタービレ」も記念す  
べき10号を迎えました。その間、様々な  
先生方から紙面を支えていただきました。  
また、表紙の写真では、笑顔で音楽活動  
を楽しむ子ども達の姿、先生方が共に音  
楽活動に取り組む姿から元気をいただき  
ました。この十年の間には2度の東北大会もあ  
りました。少子化の影響で教員数も激減  
する中、最上地区・置賜地区の先生方に  
は山形県の音楽教育を高めていただきま  
した。十年という節目を迎え、県内の音  
楽教育状況を伝える場として、先生方か  
らの協力を得ながら、充実した紙面にし  
ていきたいと改めて感じたところです。担当 色部(滝山小)  
小島(蔵王一中)